

トークイベント 瀬戸内の島の 生活文化を 可視化する



豊島家浦港を背に（昭和20年代後半・安岐理加提供）

かつて香川県が実施した島々の調査から約40年。
刻々と変わりゆく島でくらしながら、それぞれの視点・方法で
生活文化の可視化に取り組まれている3人のゲストをお招きします。



中尾 圭 Kei Nakao

千葉県佐倉市生まれ。大学卒業後、コミュニティデザインを生業とするまちづくり会社に参画。2016年に広島県福山市地域おこし協力隊として同市内海町横島に移住。夫婦で地域編集ユニット「港の編集室」としてデザイン・執筆や地域活動に取り組む。2021年より年刊誌「みんなでつくる中国山地」書き手・編集。2022年より「福山聞き書き人の会」を発足し、瀬戸内の生活史の記録をはじめ。ガイドブック「内海手帖」（2016）、福山市山野町のマーケット「おやまのいるどり市」（2018～）、漁師と友達になるフェス「UTSUMI FISHERMANS FEST」（2019～）など。



安岐理加 Rika Aki

香川県小豆島生まれ。国内外での滞在制作の経験と2010年の瀬戸内国際芸術祭への参加を経て郷里の生活文化の記録と保存に関心を持つ。2012年より豊島の父親の生家にて「てしまのまど」始動。オーラルヒストリーの収集・記録とワークショップ等を中心としたアートプロジェクトを開始。2014年中西レモン氏と共同で「インタヴュー・資料集豊島益踊り音頭」制作。2015年美術家の藤井光氏を招聘し豊島産業廃棄物処理場を記録、翌年グループ展「その島のこと」にて展示。個人では島のくらしとリサーチをもとに映像メディアを主に扱った作品を制作している。



下道基行 Motoyuki Shitamichi

岡山県岡山市生まれ。国内の戦争遺構の現状を調査する「戦争のかたち」（2001-2005）、国境の外側に残された日本の植民／侵略の遺構をさがす「torii」（2006-）など展覧会や書籍、ワークショップなどで発表を続けている。フィールドワークをベースに、生活のなかに埋没して忘却されかけている物語や日常的な物事を写真やイベント、インタビューなどの手法により編集することで可視化する。2019年、ヴェネツィア・ビエンナーレ国際美術展日本館の参加アーティストでもあり、国内外の展覧会に参加。2019年より「瀬戸内」資料館を企画・監修し、「館長」に就任。

2024. 8/4 (日)
13:30-16:00

香川県立ミュージアム

1F 図書コーナー（高松市玉藻町5-5）

*瀬戸内海歴史民俗資料館ではありません。ご注意ください。

先着40名（要事前申込）・無料

報告

「横島のくらしを聞き取る」

中尾 圭（港の編集室）

「豊島より-生活者としてのまなざしと記録」

安岐理加（美術家、てしまのまど代表）

「直島の今をアーカイブする」

下道基行（美術家、瀬戸内「」資料館館長）

「瀬戸内の島々のモノとコトを集める」

田井静明（瀬戸内海歴史民俗資料館職員）

トークセッション

中尾圭、安岐理加、下道基行、田井静明
司会 松岡明子（瀬戸内海歴史民俗資料館館長）

申込方法: 電話、「香川県電子申請・届出システム」を利用したインターネットから。

*インターネットからのお申し込みは、瀬戸内海歴史民俗資料館ホームページ右下の
関連リンクから「香川県電子申請・届出システムのページ」をクリックしてください。

申込期間: 2024年7月7日(日)から申込開始、定員になり次第終了。

問合せ先: 瀬戸内海歴史民俗資料館（右記参照）

瀬戸内海歴史民俗資料館
Seto Inland Sea Folk History Museum



〒761-8001 高松市亀水町1412-2
TEL 087-881-4707 FAX 087-881-4784
<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kmuseum/setorekishi/>